

# 地域おこし協力隊だより 11月号

発行 No.18号 平成29年11月10日発行

先日、東京では昨年よりも10日も早く木枯らし1号が吹いたそうです。このまま駆け足で冬になってしまうのか？と寒さが苦手な私は早くも不安になっています。今年は、山のきのこの出来が悪く、柿やゆずなどの実りも少なかったそうですが、昨年よりも鮮やかな山の紅葉を見て、2年目の秋を実感しながら自然の恩恵も厳しさもたくさん受けている協力隊生活です。



## 『田んぼ88プロジェクト』総特集！



田植え体験と稲刈り体験に参加していただいた方へ精米したお米を渡し終え、ほっと一息。今年の今頃は、まだ自分がお米づくりをするとは思っていませんでしたが、こうして収穫を終えてみると、協力隊になったからこそ体験できた、とても貴重な時間でした。少なくとも私の友人でお米づくりをしたり、稲の花を見たことがある人はいません。初めて田んぼに入った日から脱穀までの半年間のプロジェクトを振り返ります。

### 4/1 田起こし



大きく振り上げなくても、万能の重さを上手く使えば深く土を耕せるのだと学びました。

### 4/30 代かき



水の入った田んぼは泥が足にまとわりついて歩きにくい！（長靴を変えるとだいぶ改善しました）

### 5/6 田植え

早乙女衣装でおめかし。機械の速さには敵いませんが、その分丁寧に、楽しく手植えを行いました。意外とまっすぐに植えることができました！

＼出穂＼



追肥や消毒、草刈



分けつ期



### 9/18 稲刈り

台風一過の日差しの下、手刈りとおだ掛けを行いました。お昼に食べた炊き立て羽釜ごはんは格別の味！

### 10/5 脱穀



脱穀は「ガーコン」を体験。コツは力強く踏み、優しく稲を入れること。見た目よりも難しかったです。

＼発送完了！



たくさんの方の支えにより、無事に終わることができました。ありがとうございました！



## お月見で行った阿弥陀堂



10月4日(水)に諸沢1区にある阿弥陀堂にてお月見が催され、私も参加しました。そこで今回は、残された仏像から見た阿弥陀堂の歴史とお月見当日の様子をお伝えします。

### 子を抱くお地蔵さまの多い阿弥陀堂

ここには石碑が数種類ありますが、その中でも、明治時代に作られた子を抱く形のお地蔵さまが特に多く、そこには経文のようなものが書かれた「ざくまた」と呼ばれる二股に分かれた木が捧げられていました。(右写真参照)

阿弥陀仏を祀る場所なので、亡くなった人を西方浄土に迎えるという意味合いがあるでしょう。また、お地蔵さまは安産や子供の成長を祈るほか、死後に賽の河原で苦しむ子供を守ると云われており、子を亡くした親からの信仰が厚かったそうです。明治の頃は乳幼児の死亡率が高く、生まれてすぐ亡くなる子供が多かったのかもしれない。ここではそういった時代の面影を見ることができます。



▲子を抱く地蔵と捧げられたざくまた

### 阿弥陀堂の歴史



▲安永3年の庚申供養塔(写真中央)

阿弥陀堂の建立年は不明ですが、お堂の前に残っている最古の石碑が江戸時代後期の安永3年(1774)の庚申供養塔のため、その頃には庚申信仰の集まり(庚申講)があったと考えられます。

こちらには江戸から明治にかけて作られた18個の石塔や石仏があります。この頃は様々な講があったのでしょう。

### 10/4 阿弥陀堂お月見



当日は地区の皆さんが集まり、貴重なお話を伺うことができました！現在は行事が少なくなりましたが、かつてはお花見や新年の集まりなども行われていたそうです。昔から地域住民が集う場だったのですね。この日は掛け軸も飾られました。

参考文献:「山方町誌」茨城県那珂郡山方町文化財保存研究会

「山方の石仏石塔」山方町教育委員会・山方町文化財保存研究会

次回もお楽しみに！！

制作者: 志賀瑞穂(表面)、岩崎文香(裏面)

tel:0295-52-1111(常陸大宮市役所 地域創生課内)

ブログ:ごじゃっペライフ

<http://gojappe.sakura.ne.jp/>

フェイスブック:

<https://www.facebook.com/hitachiomiya.chiikiokoshi/>

